



「切り札」洗平歩 9回ピンチ救う

ヒーロー

九回裏、1点差まで詰め寄られた八学光星のピンチを、主戦洗平歩が救った。相手に流れが傾きかける中、1死二塁の局面でマウンドに登場。キレのある直球とスライダーを駆使して次の打者を三振に打ち取ると、最終打者の中飛に仕留めた。甲子園出場が懸かる一打同点の場面で、捕手の文元が「最高のヒッチングだった」と絶賛するほど圧巻の投球だった。これまでもピンチの場面で「切り札」としての登板が多かった洗平歩は「9回裏、八工大―1死二塁、八学光星の主戦・洗平歩が登板し、1点差を返した。」（野村監督）



優勝の瞬間、人さし指を高々と掲げて跳び上がる八学光星の主戦・洗平歩（左手前）と捕手・文元

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです